小学校

平成９年度

教育研究員研究報告書

国　語

東京都教育委員会

平成9年度

教育研究員名簿

低学年A分科会	台東	根岸小	小島由記代
	墨田	第四吾嬬小	芹澤　芳子
	世田谷	赤堤小	青木　禮子
	練馬	向山小	内田　典子
	八王子	上柚木小	○増田　泉
	町田	小川小	高橋　圭子

高学年A分科会	新宿	西戸山小	○古谷　勉
	江東	南砂東小	清水美恵子
	品川	第一日野小	並木　玲子
	足立	千寿第二小	清水　里香
	葛飾	東柴又小	大石　信一
	江戸川	鹿骨東小	小川　和美
	江戸川	小岩小	橋爪　良子

低学年B分科会	千代田	麹町小	島田美佐江
	大田	山王小	□佐久間妙子
	渋谷	本町小	兵頭　昌子
	足立	五反野小	阿部　恵子
	小平	小平第十四小	清水　朝子
	清瀬	清瀬第九小	宮本　順子

高学年B分科会	世田谷	塚戸小	中島　祥広
	板橋	常盤台小	小池　隆一
	練馬	上石神井小	神子　知浩
	八王子	宮上小	田中久美子
	武蔵野	第五小	神山　直子
	府中	小柳小	山下　裕子
	昭島	東小	◎真如むつ子
	東村山	久米川小	小林千恵子

中学年分科会	中央	中央小	古澤　敬子
	文京	誠之小	毛利　純子
	大田	中萩中小	小杉　裕子
	中野	野方小	須藤田鶴子
	杉並	高井戸第四小	□山口　麻衣
	北	豊島東小	坂本喜代子
	青梅	吹上小	池田　信子
	日野	日野第一小	乾　ひさ子
	東久留米	第二小	渡辺　圭子
	八丈	中之郷小	梅田みどり

◎全体世話人
○全体副世話人
□全体記録

担当　教育庁指導部初等教育指導課指導主事　清水朋子

目　　　次

Ⅰ　共通研究主題及び基本的な考え方

1　共通研究主題設定の理由 …… 2

2　共通研究主題に対する基本的な考え方 …… 2

Ⅱ　研究の概要

1　研究の内容と方法 …… 4

2　研究の構想 …… 5

3　望ましい児童の姿 …… 6

Ⅲ　各分科会の実践

1　各分科会実践の概要 …… 8

2　各分科会における実践事例（単元構想の概要）

○　低学年Ａ分科会 …… 9

「なるほど・ザ・カード」でパワーアップしよう！

○　低学年Ｂ分科会 …… 12

ひとりの読みからみんなの読みへ，楽しく読み深め，読書の世界を広げよう。

○　中学年分科会 …… 15

昔から伝えられてきたアーチの強さや組み立て方の知恵について知り，疑問に思ったことについて実験や資料をもとに「アーチ橋ひみつファイル」を作る。

○　高学年Ａ分科会 …… 18

「川とノリオ」と「石うすの歌」を読み比べて，戦争中に生きた子どもの生活や思いを考える。

○　高学年Ｂ分科会 …… 21

「守る，みんなの尾瀬」を学習後，いろいろな伝記文を読み，自分の選んだ心に残る人物を紹介し合う。

Ⅳ　研究の成果と課題 …… 24

＜要　約＞

国語科においては心豊かに表現し理解するために，言語能力を高めていくことと共に児童の思いや願いを大切にし，自ら学ぼうとする意欲を高め，児童が主体的に取り組めるような学習を創造していくことが求められている。

本研究では，主体的に読む過程のなかで，一人一人のよさを認める多様なかかわり合いを生かした学習の工夫を通して，自分の考えを深め，学習や生活に生かそうとする児童の育成を目指したものである。

Ⅰ　共通研究主題及び基本的な考え方

共通研究主題　　主体的に読み，自分の考えを深める指導の工夫
―― かかわり合う活動を通して ――

1　共通研究主題設定の理由

これからの社会は変化の激しい先行き不透明な時代であり，児童の生活の現状においても社会性の不足や自立の遅れ，いじめや不登校など重要かつ緊急な課題が上げられている。このような状況を考えると，児童一人一人が広い視野に立ち，生涯にわたって主体的に生きていくことのできる資質や能力を身につけることが強く求められている。そのためには，一人一人のよさや可能性を生かしながら，人間，自然，社会，文化などの様々な対象に進んでかかわり，自ら考え，判断し，行動できるようにすることが必要となる。

国語科の学習においても，心豊かに表現し理解するために，言語能力を高めていくことと共に，児童の思いや願いを大切にし，自ら学ぼうとする意欲を高め，児童が主体的に取り組めるような学習を創造していかなければならない。また，一人一人のよさを認める多様なかかわり合いを生かした学習を工夫することで，自分の考えを深め，それを学習や生活に生かす力や態度を育てていくことができると考えた。

自分の考えを大切にし他とかかわり合う活動を通して，課題解決する能力の育成と，思いやる心や感動する心など豊かな人間性をはぐくむ国語科の学習を目指して，本主題を設定した。

2　共通研究主題に対する基本的な考え方

私たちは，主体的に読み，自分の考えを深めていく上での望ましい児童の姿を次のようにとらえた。

- 楽しんで読んだり，目的をもって読み進めたりする児童
- 様々なかかわり合いを通して，自分の考えを深めようとする児童
- 深まった読みや考えを学習や生活に生かそうとする児童

上記の児童像を目指すため，次のような２つの基本的な考え方に立ち，学習指導の改善を図っていくことにした。

(1)　主体的に読み，自分の考えを深めるとは

「主体的に読む」ということを，以下の３つととらえた。

①楽しく読む

話したい，伝えたいという思いを大切にしながら，自ら教材に取り組むこと。

②自分の生活や思いと照らし合わせて読む

今までの自分の経験に照らして，文章の中に込められた思いや考えを深く読むこと。

③目的や課題をもって読む

文章を通して何をどのように読むのか，見通しをもって読み進めること。

児童が興味や関心をもって自分の力で読み進めていく中で，自分の思いや願いを大切にし，心豊かに読み進めていこうとする意欲を育てたいと考えた。

以上のような「主体的に読む」過程で，様々なかかわりを通して，自分の考えを深めていくことが大切である。

「自分の考えを深める」児童の姿として，以下のように考えた。

- ・自分と友達の考えを比べて違いに気づく。
- ・新しい考えに気づく。
- ・自分になかった考えを他から取り入れる。
- ・自分の考えのよさを確信する。
- ・自分の考えが変容する。
- ・自分の学習や生活に生かす。

他にも様々なものが考えられるが，一つの望ましい児童の姿の例としてあげた。「自分の考えを深める」とは，主体的に読み様々にかかわり合う活動を通して，児童一人一人が自分の考えをもち，イメージを広げ，考えを変容させ，さらに自分の考えを生かしていくこととしてとらえた。

⑵　かかわり合う活動とは

「かかわり合う活動」とは，児童が主体的に読み進める中で，考えを深めたり，広げたりすることを支えるものである。かかわり合う活動には，大きく分けて「人とかかわり合う活動」と「ものとかかわり合う活動」の二つがある。

「人とかかわり合う活動」では，友達や教師の他に，家族，地域の人々，図書館の司書や博物館の学芸員などとかかわることが考えられる。聞き合う，話し合う，読み合うなど児童同士がかかわり合う活動の中で，考えを深めていくことをねらっている。また，図書館や博物館などで質問することや，地域や家庭で情報を集めてくることも，考えを広めることに大きく役立つ活動だと考える。

「ものとかかわり合う活動」には，児童が教材に出会い学習課題を解決するために様々な資料を利用したり，解決のための情報を得るために図書館や博物館，コンピュータなどを利用したり，他教科や他教材と比べて考えたりするなどのかかわり合いがある。他の資料などから情報を集めたり，まとめたりしていく活動で，人以外の様々なもの（図書，資料，など）とかかわり合う中で，児童が考えを深めていくことをねらっている。

なお，二つのかかわり合う活動は，一人一人の興味，学習課題，教材，指導体制，地域との協力，学習環境，学年の発達段階などにより，多種の関連や方法が考えられる。また，双方が効果的に結び付くことによって，一人一人のよさが十分に発揮される学習活動が展開し，研究主題に迫っていくものと考えた。

Ⅱ　研究の概要

1　研究の内容と方法

(1)　研究の内容

児童が主体的に読み，自分の考えを深めるために，次のように研究を進めることとした。

① 児童が自分の思いや願いを生かし，主体的に学習に取り組むことができるように単元構成を工夫する。

② 児童が互いのよさを生かし，認め合うことのできる学習活動を工夫する。

③ 児童が自分の言葉で考え，想像し，表現することを共感的に理解し，支援するという考え方に立って，指導と評価を工夫する。

(2)　研究の方法

研究主題の具体化を図るために，次のような仮説を立て，それに基づいて5つの分科会を構成し，それぞれの分科会研究主題を設定して研究を進める。

研　究　仮　説

主体的に読む過程で，様々なかかわり合いを大切にした学習活動を設定すれば，互いのよさに気付き，自分の考えを深め，生かしていくような児童が育つ。

低学年A分科会「自分や友達の考えのよさを大切にしながら，文学的文章を楽しく読み深める学習活動の工夫」

低学年B分科会「楽しく読みながら，互いのよさに気づき，自分の思いや考えを深める学習活動の工夫」

中学年分科会「多様なかかわり合いの中で，自分の思いや考えを深める学習活動の工夫」

高学年A分科会「目的に応じて複数教材を活用し，自分の考えを深める学習活動の工夫」

高学年B分科会「目的や課題をもって読み，かかわり合いを通して自分の思いや考えを深める学習活動の工夫」

2　研究の構想

新しい学力観
新しい評価観

東京都教育委員会の教育目標

社会的要請
保護者の願い

＜共通研究主題＞
児童一人一人のよさや可能性を生かし，
生きる力をはぐくむ指導の工夫

児童の実態
教師の願い

国語科のねらい

＜国語部会研究主題＞
主体的に読み，自分の考えを深める指導の工夫
― かかわり合いを通して ―

目指す児童像

・楽しんで読んだり，目的をもって読み進めたりする児童
・様々なかかわり合いを通して，自分の考えを深めようとする児童
・深まった読みや考えを学習や生活に生かそうとする児童

研究仮説

主体的に読む過程で，様々なかかわり合いを大切にした学習活動を設定すれば，互いのよさに気づき，自分の考えを深め，生かしていくような児童が育つ。

研究の内容

単元構成の工夫　　学習活動の工夫　　指導と評価の工夫

低学年Ａ分科会研究テーマ	低学年Ｂ分科会研究テーマ	中学年分科会研究テーマ	高学年Ａ分科会研究テーマ	高学年Ｂ分科会研究テーマ

望ましい児童の姿

主体的に読む

楽しく読む

おもしろいなあ
この話知ってる
続きはどうなっているのだろう

自分の生活や思いと照らし合わせて読む

ぼくもこんなことがあったよ
見たことがあるよ

目的や課題をもって読む

知りたいなあ
調べてみたいなあ
あの方法で調べよう

かかわり

聞き合う　話し合う

- 音読・朗読
- 発表
- 質問して答える
- 意見や考え
- インタビュー

書き合う　読み合う

- 新聞
- えんぴつ対談
- リレー作文
- 交換日記

教え合う　認め合う

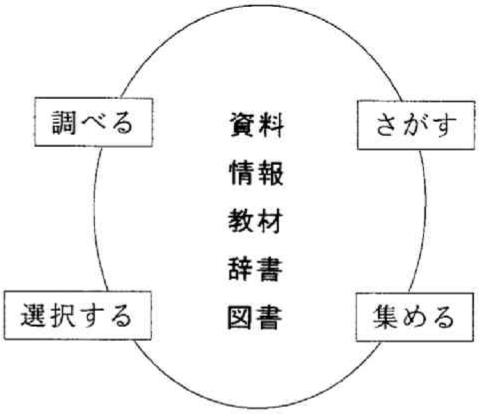
- ヒントカード
- アドバイスカード
- 相談コーナー
- 相互評価

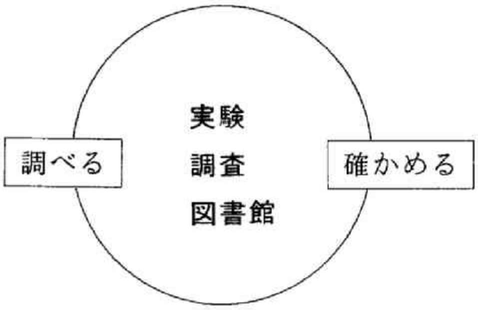
見せ合う

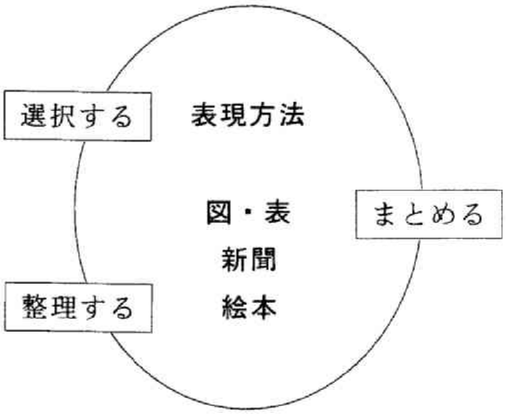
- 劇・動作化
- ペープサート
- 紙芝居
- ビデオ
- 図・表

合　う　活　動

考えを深める







- 自分と友だちの考えを比べて違いに気付く
- 新しい考えに気付く
- 自分になかった考えを他から取り入れる
- 自分の考えのよさを確信する
- 自分の考えが変容する
- 自分の学習や生活に生かす

Ⅲ　各分科会の実践

1　各分科会実践の概要

	単元構成の工夫	学習活動の工夫	指導と評価の工夫
低A分科会	○教材の特性を生かした目的を設定することにより，読みへの意欲を高める。 ○登場人物の気持ちを聞き合う活動を通して，楽しく読み深める。	○動作化等を通して想像した登場人物の気持ちをふきだしに書く。 ○読みを楽しんだり確かめたりするために，役割音読をする。	○自分の考えが広がったことが分かるようなふきだしの書き方をする。 ○友達のよさに気づくようにかかわり合う場を設定する。
低B分科会	○絵本を作るという目当てを設定し，学習の見通しをもつ。 ○読むことの楽しさや読みの力を読書に広げる。	○グループで登場人物の気持ちを書き込んだワークシートを読み合い，よさを認め合う。 ○気付きや変容した考えを書き足す。	○気持ちの変化に気を付けるよう挿し絵を活用する。 ○評価の視点を細分化して「評価カード」を作成する。 ○ワークシートに自己評価できるコーナーを作る。
中学年分科会	○他教科での学習と照らし合わせながら読む。 ○学習の最終的な活動目標を意識し，学習進め方すごろくで手順を理解する。	○実験・調査・資料を読むなどの多様な調べ学習を取り入れ，学習体験を増やす。 ○接続語を使って，調べたことや考えたことを分かりやすく書く。	○構成表や取材メモの形式を個別に変えて提示する。 ○自分の作品の宣伝をする自己評価，友達の作品にカードを書く相互評価の場を設定する。
高A分科会	○大単元を設定し，生き方を見つめる。 ○二作品を比べて読むことから，読書への興味関心を深める	○オリジナルハンドブック作りという明確な目当てを設定し，学習したことが形に残るようにする。	○学習振り返りカードに，毎時間の自己評価を記入する。 ○相互学習を促すために，友達の作品にシールを貼る。
高B分科会	○日常的な読書活動や他教科と関連する単元を工夫し，興味関心を高める。 ○学習計画を児童と共に作り上げることにより，単元全体の見通しをもつ。	○学習内容や方法を児童が自ら選択する。 ○一対一，グループ，学級全体といった学習形態を取り入れ，多様なかかわり合いを設定する。	○学習計画に基づいた自己評価や相互評価を行い，主体的な学習を積み上げる。 ○支援・評価表を用いて意図的計画的に指導する。

低学年A分科会　研究主題　自分や友達の考えのよさを大切にしながら，文学的文章を楽しく読み深める学習活動の工夫

第２学年　**「なるほど・ザ・カード」でパワーアップしよう！**

(1) 単　元　名　スイミー劇場へようこそ
　　教　材　名　スイミー

(2) 研究主題と単元とのかかわり

子どもたちが主体的に物語を読み進められるように，毎時間の学習では，ペープサートのスイミーに自分が読み取った様子や気持ちを語らせ，ワークシートにふきだしや絵をかき，楽しみながら自分の「スイミー劇場」を作っていくようにした。教室にも大きな背景を提示することにより，子どもたちをスイミーの世界に充分浸らせるようにした。

ふきだしを友達と発表し合う中で，自分が気付かなかったことや友達の表現のよさを発見した時に「なるほど・ザ・カード」を出して意志表示し，それを自分のワークシートに付け加える活動を「パワーアップ」と名付け，友達とかかわって学習することの楽しさを味わわせたいと考えた。

(3) 学習指導計画の概要（全１２時間　本時８／１２時）

時	主な学習活動	主題に迫るための具体的な手だて（・支援◎評価）
第一次②	・全文を読み，学習の見通しをもつ。	・単元の目標に意欲がもてるように，初発の感想の発表を認め，励ますようにする。 ◎読み進めていく意欲と学習の見通しをもつことができたか。
第二次⑥	・場面ごとのスイミーの行動や気持ちを読み取り，ふきだしに書いたり，スイミー劇場で表現したりする。	・スイミーの気持ちをふきだしに書けるように，劇場に見立てたワークシートを使う。 ・友達の考えのよさを取り入れ，ふきだしに書き加えるようにする。（パワーアップ） ◎自分や友達の考えのよさに気付いて，ふきだしに書き加え，スイミー劇場で表現できたか。
第三次④	・スイミーに手紙を書いたり，スイミー劇場を開いたりして，学習のまとめをする。 ・レオ＝レオニの他の作品を読む。	・学習したことが振り返れるように，スイミーの気持ちを考えて表現するように指導する。 ◎楽しんでスイミー劇場ができたか。 ◎別の作品を読んで，物語の筋やおもしろいところについての感想をもつことができたか。

(4) 本時の指導

① 目　標　・大きな魚を追い出したときのスイミーの気持ちを考え，ふきだしに書き，伝え合おうとする。（関心・意欲・態度）

・大きな魚を追い出したときのスイミーの気持ちをふきだしに書いたり，伝え合ったりできる。（表現）

・スイミーの気持ちや役割を読み取ることができる。（理解）

② 展　開

学　習　活　動	かかわり合い	・支援　◎評価
1　前時までの学習を振り返る。	・互いのスイミー劇場を見ながら，前時までの学習を振り返る。	・スイミーのペープサートを劇場の中で動かしながら，学習を振り返らせる。
2　学習場面を音読し，本時の目当てを確かめる。		・範読後，微音読や斉読を繰り返し，音読練習をさせる。
大きな魚を追い出したときのスイミーの気持ちを読み取ろう。		
3　スイミーが「ぼくが目になろう。」といったわけを発表する。	・互いの発表を聞き合い，「ぼくが目になろう。」といったわけを読み取る。	・自分の考えをもっていても発表できない児童を励ます。
4　大きな魚を追い出したときのスイミーの気持ちをふきだしに書く。	・スイミーの気持ちをふきだしに書くことができたら，近くの子と見せ合う。	・書けない児童には，書き出しの言葉をヒントに出す。 ◎ふきだしが書けたか。
5　ふきだしを発表する。	・友達の発表を聞き，よいと思った時に「なるほど・ザ・カード」を出して，よさを認め合う。	◎なるほど・ザ・カードが出せたか。
6　友達の発表の中からよいと思ったところをふきだしに加え，パワーアップする。	・友達の考えのよいところを，青いふきだしに書いて付け加える。	・児童の発表を板書し，パワーアップする時に思い出せるようにする。 ◎友達の考えのよさを認め，パワーアップできたか。
7　自分のスイミー劇場の中で学習を振り返る。	・隣同士でスイミー劇場を見せ合う。	◎本時で学習した場面のスイミー劇場ができたか。

③ 評　価　・協力して大きな魚を追い出したスイミーと赤い魚たちの喜びについて考え，学習を振り返ってふきだしに書くことができたか。

・ふきだしに書いたスイミーの気持ちを発表することができたか。

・友達の発表を聞いて，自分の考えと比べ，よいところに気付き，自分のふきだしの中に取り入れることができたか。

(5) 研究の成果と課題

＜成　果＞

① 単元構成の工夫について

自分の「スイミー劇場」を作るという目的を設定することにより，児童は読みの見通しをもつことができた。自分のワークシートがつながって増えていく喜びが，児童の意欲を持続させることに効果的だった。また，絵本を読み聞かせるなど教材との出会いを工夫したり，大きな絵を張り巡らせて教室全体を海の中の雰囲気にしたりしたことによって，全員が「スイミー劇場」に取り組み，毎時間の学習を楽しみにするようになった。ペープサートを動かして，スイミーの気持ちを話して聞かせ合う活動により，友達との学び合いも自然に行われた。「スイミー劇場へようこそ」という単元構成が，教材の特性に合っていたことも，楽しさにつながったと考えられる。

② 学習活動の工夫について

本分科会は友達同士のかかわり合いを重点として研究を進めた。

「なるほど・ザ・カード」を使うことによって，友達の発表をよく聞くようになり，友達の考えと自分の考えとのちがいに気付くようになった。また，友達の考えのよさに気付き，認め合う姿も多く見られた。さらに，友達の考えを自分の考えに付け足したり，自分の考えを見直したりするようになった。

ワークシートに書いたふきだしの内容を分析した結果，友達の考えのよさを取り入れて「パワーアップ」していた児童が多いことがわかった。このことから，友達とかかわり合う学習が，児童の考えを深めることに役立ったといえる。

友達と聞き合う・読み合う・話し合う等の学習活動を取り入れることにより，友達同士互いにかかわり合い，互いの考えのよさに気付き，学び合うことにつながった。

③ 支援と評価の工夫について

友達とかかわり合う活動を取り入れることによって，友達の考えをよく聞くようになり，友達の考えのよさを見つけ，互いに評価する力が身に付いてきた。

「なるほど・ザ・カード」を使用することによって，相互評価の方法もわかりやすくなり，児童が互いに目で確認することができた。

＜課　題＞

- 本文の読み取りの時，自分の考えのもとになる叙述を言ったり，本文にサイドラインを引くなど，常に本文に立ち返るための言葉かけが必要である。
- ワークシートに適切な支援をすることで，次時の読みに生きると考えた。どのような言葉かけをすると読みが深まるのか，支援の仕方を工夫していく。
- 友達とかかわり合う活動から，児童が何を学び，どんな力を身に付けていくのかを今後も検証していく。

低学年B分科会	研究主題	楽しく読みながら，互いのよさに気づき，自分の思いや考えを深める学習活動の工夫

第２学年　**ひとりの読みからみんなの読みへ，楽しく読み深め，読書の世界を広げよう**

(1)　単元名　　気持ちを考えて，楽しく読もう
　　教材名　　「お手紙」

(2)　研究主題と教材とのかかわり

本教材は，悲しんでいる友達を思い，さりげない優しさで喜ばせようとする温かい友情を描いている。主人公達の優しい心の交流が，挿し絵からも温かく伝わってくる作品である。

ほとんどの場面で，二人の行動と心情が描かれているため，児童は，自分や友達と同化しやすい。そこで，挿し絵と会話からその心情を思いやりながら，音読させたい。

二人の行動を動作化したり，役割読みしたりすることにより，互いの表現のよいところを話し合い，気持ちを考えるようにする。そして，自分が読み取った登場人物の気持ちを吹き出しに書く。次に，グループの友達で吹き出しを読み合う。その中で，自分が気付かなかったことや，自分とは違う表現の仕方にシールを貼って認め合う。さらに，もう一度，自分の表現を見直し，必要に応じて書き加える。

互いに認め合うことで，自分の考えに自信をもって表現し，さらに向上させようと意欲的に取り組める児童に育つよう期待したい。さらに，読むことの楽しさが他の読書への意欲につながると考える。

(3)　学習指導計画の概要（全１５時間　本時８／１５時）

時	主な学習活動	主題に迫るための具体的な手だて（・支援◎評価）
一次③	・挿し絵や場所を手がかりに５つの場面に分ける。	・場所や会話を区別できるカードやシールを貼って意識させるようにする。 ・挿し絵を提示する。 ◎二人の気持ちや行動について感想をもつことができたか。 ◎場所や会話に気をつけて，場面分けができたか。
二次⑦	・場面ごとに読み，気持ちや様子を考え，吹き出しや手紙に書く。	・動作化や役割読みにより，気持ちを考えさせるようにする。 ・グループで読み合うことにより，互いのよさを認め合えるようにする。 ◎進んで気持ちを考えようとしたか。 ◎友達のよさに気づき自分の言葉で表現できたか。
三次⑤	・絵本作りをして読み合う。 ・他の図書を読む。	・グループで読み合い，良いところを見つけ，伝え合う。 ◎進んで他の関連図書を読もうとしたか。

(4) 本時の指導

① 目　標　・二人の気持ちを進んで書き，読み合おうとする。　（関心・意欲・態度）
　　　　　・二人の気持ちを話し合ったり，吹き出しに書いたりできる。　（表現）
　　　　　・二人の気持ちの変化を読みとることができる。　（理解）

② 展　開

学　習　活　動	かかわり合い	・支援　◎評価
1　目当てを確かめる		・前時までの流れを思い出せるように挿し絵を掲示する。 ・様子だけでなく，気持ちが変わっている文に気付かせるようにする。
二人は，どんな気持ちになったのだろう。		
		◎目当てを確かめられたか。
2　音読し，二人の気持ちを考える。	・かえるくんとがまくんの役割読みをし，聞き合う。	・役割音読をすることにより，気持ちを考えられるようにする。
3　がまくんはどのように気持ちが変わったか話し合う。 ・かえるくんが，お手紙のことをうち明けたわけを話し合う。	・がまくんが，かえるくんに手紙を出したことを言ってしまった理由について，考えを話し合う。	・「だってぼくが…」の言葉を板書する。 ・がまくんの行動や「きみが」「お手紙に…」「ああ」などの言葉に気付くようにする。 ・内容のよさに気付けるよう，お手紙の文を模造紙に書いておく。 ・玄関に…の文に気付くようにする。
・二人はどんな<u>気持ち</u>で玄関に座っているか話し合う。	・自分が考えたことについて話し合う。	・挿し絵を手がかりに気持ちの変化に気付くよう，1の場面の挿し絵を教室内に掲示する。
4　二人が話していることを吹き出しに書く。		・書けない子には，ヒントカードを渡す。 ◎吹き出しに書けたか。
5　吹き出しを読み合う。	・書いたらグループで読み合う。 ・よい所等に「ほめほめシール」を貼る。	・グループを回り読み合い活動がうまくいくよう声をかける。 ◎グループで読み合ったり発表を聞いたりして，書き加えをする事ができたか。

6　二人の気持ちが表れるように音読をする。	・気持ちを考えて，音読を聞き合う。	◎二人の気持ちを考えた音読ができたか。

③　評　価　・二人の気持ちを進んで書き，読み合おうとしたか。
・二人の気持ちを考えたり，書いたりしながら，二人の気持ちの変化を理解できたか。

(5)　研究の成果と課題

＜成　果＞

①　単元構成の工夫について

・導入では，二人から児童たちに「お話を読んでね。」というお手紙が届いた設定にした。どの児童も興味を示し，早く読んでみたいという気持ちになった。また，手紙をもらった経験を思い出させることで，物語に対する期待が高まった。
・他教科との関連を図り（特に生活科），手紙に対する親しみを感じられるようにした。
・毎時間登場人物と同化できるような吹き出しを書くようにしたが，途中で自分からがまくんに手紙を書かせ，変化をもたせた。そのため，学習を振り返り，表現することができた。
・毎時間学習したワークシートを，最後には「自分の絵本にまとめよう」という目当てをもたせたため，意欲的に取り組む児童が多かった。
・読解指導より，読むことの楽しさや読みの力を読書に広げることを大切にした。その結果日常的に，同じ作者の本やかえるが出てくる本を探して読む姿が見られた。

②　学習活動の工夫について

・吹き出しや手紙を4～5人の小グループで読み合う活動をさせた。その時，『よいなと思うところ』とか『自分とは違うことが書いてあるところ』などの観点で「ほめほめシール」を貼った。互いのよさを発見できるとともに，シールを貼ってもらった児童は自信をもつことができた。
・友達のよさを自分に取り入れ，別の吹き出しに書けるようにした。回を重ねるごとに，考えを深めたり，よりよく表現したりできるようになった。

③　支援と評価の工夫

・単元目標から評価の視点を細分化して作成した「評価カード」を活用することにより，毎時間ごとの児童の実態をつかむことで，適切な支援ができた。
・ワークシートの裏に短時間に自己評価できるコーナーを作った。毎時間後，自己評価していくことで学習に対する意欲が増した。

＜課　題＞

・動作化や吹き出しを丁寧に指導すると子どものイメージはふくらむが，これにかける時間がどうしても長くなりがちである。効果的に行う工夫を考えていく。
・一時間のうちに二人の気持ちを吹き出しに書くようにしてきたが，考えをより深めさせるためには，一人に焦点を絞り書かせるなど効果的な方法を探る。

中学年分科会	研究主題	多様なかかわり合いの中で, 自分の思いや考えを深める学習活動

第４学年　**昔から伝えられてきたアーチの強さや組み立て方の知恵について知り，疑問に思ったことについて実験や資料をもとに「アーチ橋ひみつファイル」を作る。**

⑴ 単元名　たしかめてみよう　アーチ橋のひみつ
　教材名　「アーチ橋の仕組み」

⑵ 研究主題と単元とのかかわり

４年生の児童は，自分の課題に対して意欲的に取り組み，様々な活動を通して追求していく力が育つ時期である。教材文「アーチ橋の仕組み」は身近なものを中心とした内容で，児童のさらに知りたいという意欲を引き出し，多様な学習活動が成立するために選定した。

この単元の学習内容は理科や社会科と密接に関係がある。そこで，導入等を工夫し，関連付けながら学習を展開できるように工夫した。実験や調査，資料を読むなど様々な調べる活動を取り入れた。自分たちでは調べられなかったことについては，熊本県の「石匠館」や東京都建設局などの協力を得，児童が自ら問い合わせるなどの活動も行った。

課題解決的な学習を展開し，調べたことや考えたことなどを「アーチ橋ひみつファイル」としてまとめる。まとめるときには，分かりやすい説明文になるように，教材文から学んだ接続語を使って書くことへとつなげていく。このことから，論理的な思考力の育成へとつなげていきたいと考えた。

⑶ 学習指導計画の概要（全１３時間　本時１０／１３時）

時	主な学習活動	主題に迫るための具体的な手だて（・支援　◎評価）
第一次②	・隅田川にかかる橋の写真やパンフレットを見て橋の形の違いに気付き，興味をもって「アーチの仕組み」を読む。 ・分かったことや疑問点を出し合い，学習課題を決め，学習の見通しをもつ。	・たくさんの橋にアーチが使われていることを確認する。 ◎興味をもって読めたか。 ◎疑問に思ったことをもとに学習課題をもつことができたか。
第二次⑤	・アーチが橋の組み立てに使われているわけを，実験をもとに，ひみつファイルⅠにまとめる。 ・アーチの形の組み合わせ方について実験や資料をもとに，ひみつファイルⅡにまとめる。	・アーチ橋に関する資料を用意し，資料を探せない児童には提供する。 ◎調べたことや考えたことを接続語を使って書くことができたか。
第三	・今もアーチの知恵が生かされている橋について知り，いろいろな橋を調べる。	・適切な資料が見つかるように助言する。

次 ⑥	・資料を読んだり，博物館から情報を得たりすることを通して，ひみつファイルⅢをまとめる。 ・自分が作った作品の宣伝をし，友達と読み合いそれぞれのよさを知る。	◎アーチ橋の知恵が今も生かされていることを理解し，接続語を使ってまとめることができたか。 ◎それぞれの作品のよさを見つけることができたか。

(4) 本時の学習

① 目　標　・いろいろなアーチ橋に隠されたひみつについて資料を探し，調べたり分かったりしたことを整理しようとする。　（関心・意欲・態度）

・調べて分かったことの中心点を短い言葉で整理することができる。　（表現）

・疑問に適した資料を探し，内容の中心点をとらえることができる。　（理解）

② 展　開

学　習　活　動	かかわり合い	・支援　◎評価
1 本時の学習の進め方について確認する。	友達の学習状況について知る。	・学習進め方すごろくをもとに振り返る。
いろいろなアーチ橋に隠された秘密について調べ，整理しよう。		
2 アーチを使った橋について資料などから調べる 資料：『橋をかける』などの本 博物館などからの情報 石匠館・科学博物館 熊本県立博物館など	友達と情報交換をしながら調べる。 様々な資料をもとに調べる。	・教科書に載っている橋についての資料は，あらかじめ用意しておく。 ・資料を見つけるための助言をする。
3 調べたことやわかったことを整理する。 4 整理する方法は自分で工夫する。 方法：取材メモの活用 構成表の利用	既習の方法を活用し整理する。	・取材カードや構成表を用意し，必要な児童が使えるようにする。 ◎調べて分かったことを，短い言葉でメモをし整理することができたか。
5 次時の目当てをもつ。 「接続語などを工夫して，ひみつファイルⅢをまとめよう。」		◎調べたことや分かったことを整理し次時にまとめる見通しをもつことができたか。

③ 評　価

・自分の疑問について，適切な資料を探し，調べたことや分かったことを選んだ方法で整理することができたか。

・自分の疑問について調べたことをもとに，自分の考えや予想などをもつことができたか。

(5) 研究の成果と課題

＜成　果＞

① 単元構成の工夫について

導入で，隅田川にかかる橋の拡大写真や水上バスのパンフレットを活用し，橋の形を押さえることを行ったことは，「アーチ橋の仕組み」を学習しようという意欲につながった。

理科「流れる水のはたらき」や社会科「郷土を開く」の学習と関連し，自分の既習の知識と照らし合わせながら読むことができた。その結果，疑問やもっと知りたいという思いが生まれ，さらに教材を読もうという意欲につながった。「分かったこと」「疑問」を色別のカードに書いて，課題を整理した。このことで活動目標がはっきりし，具体的な課題になった。この時カードを掲示し交流することにより，自分と同じ疑問や考えをもつ友達がいることを知ることができた。

単元全体を見通しをもって進められるように「学習進め方すごろく」を活用したことは，児童の主体的な活動の一助となった。そして，疑問を解決するために，教材文に即して実験することによって，筆者が強調して述べている意味が分かったり，効果的に接続語を使う必要性に気付くことができた。

② 学習活動の工夫について

児童が進んで資料を探し，地域の図書館から自主的に本を借りてくるようになった。様々な調べ学習を通して，自分の考えを確かめたり修正したりする姿が見られた。また，課題を解決するために，資料を一緒に探して調べたり友達に聞いたりする活動を取り入れた。その中で，自分と友達の考えの違いに気付いたり，友達の考えを取り入れたりすることができた。その他，調べたり，実験したりしても分からないことを，博物館や建設局の方に問い合わせたことは，児童の学習体験を増やすことにつながった。その結果得た達成感が次の学習の意欲につながった。

メモしたことをもとに，接続語を使ってまとめて書くという活動を取り入れたことにより，分かりやすく順序立てて書く方法が身に付いた。既習の学習を次時に生かすことは児童の思考をスムーズにし，表現や理解の向上につながった。

③ 指導と評価の工夫について

資料選択の際には，児童の読み取りの実態に応じて助言を与え，適切な資料を提供できるようにした。

ファイルをまとめる段階で，書く順序や接続語の使い方を工夫させるために助言をし，構成表の形式を個別に変えてみたことで，論理的に書くことができるようになった。

＜課　題＞

- 4年生段階で理解できる豊富な資料を用意することが必要である。
- 児童が自分で読み取ることのできる資料を集められる内容の教材を選定することについて，さらに検討する。
- 導入での意欲を持続しつづけられるような多様な手だてについて考える。

高学年Ａ分科会　研究主題　目的に応じて複数教材の活用を通し，自分の考えを深める学習活動の工夫

第６学年　**「川とノリオ」と「石うすの歌」を読み比べて，戦争中に生きた子どもの生活や思いを考える。**

(1) 大単元名　ファイル「１２歳を生きる」
単元名　戦争に生きた子どもの生活や思いを考え
オリジナルハンドブックを作ろう。
教材名　第１教材「川とノリオ」，第２教材「石うすの歌」
他戦争中の人々の生活が描かれた書物，資料

(2) 研究主題と教材とのかかわり

二作品とも「8月6日」を中心とした「広島」での出来事が描かれている。原爆のために直接戦争にかかわりのない身近な人が亡くなっている。特徴的なのは，「川とノリオ」では川，「石うすの歌」では石うすの音がそれぞれの主人公の気持ちやその時の様子を象徴している。

このように二作品から感じられる類似点，あるいは相違点を考えさせることで，一作品だけでは気づかなかった新たな「戦争中に生きた子ども」について自分の考えを深めることができると考えた。また教科書教材以外にも戦争中の人々を表した書物，資料にも触れさせ，さらに自分の考えに広がりをもたせたいと考えた。また目的意識をもちながら読むことをねらいとしてオリジナルハンドブック作りを取り入れた。これは毎時，自分の考えを書いた学習シート（ハンドブックシート）を最後に１冊にとじ，学習全体の流れを形に残すためである。この活動は自己評価や相互評価にも役立つと考えた。

(3) 学習指導計画の概要（全１４時間　本時１２／１４時）

時	主な学習活動	主題にせまるための具体的な手だて（・支援◎評価）
第一次②	・戦争中に生きた子どもの思いについて話し合う。 ・二作品を読み，学習計画を立てる。	・夏休みに調べてきた作品を掲示したり，よいところを紹介したりする。 ◎友達のよいところに気づいたり，下学年で学習したことを思い出したりして，戦争について考えようとしているか。
第二次⑧	・「川とノリオ」を読み，自分の考えをハンドブックシートに書く。 ・「石うすの歌」を読み，自分の考えをハンドブックシートに書く。	・視点を「子どもの生活や思い」に絞って，サイドラインを引いたり，話し合ったりする。 ・自分の考えを表す方法として，日記，心情曲線，インタビューの中から選ぶ。 ◎話し合ったことをもとに，自分なりにハンドブックシートに考えを書こうとしているか。
第	・ノリオ，千枝子，瑞枝の生活や思いについて，類似点	・ノリオ，千枝子，瑞枝の今までの心情の流れが分かるように掲示する。

三次②	相違点を探し，ハンドブックシートに書く。 ・類似点や相違点をもとに，戦争中に生きた子どもの生活や思いについて感じたことをハンドブックシートに書き，話し合う。	・話し合いでは，スムーズに話し合いが進むように，学習形態を工夫する。 ◎書いたことをもとに，自分の考えを進んで話そうとしているか。 ◎書くことや話し合いを通して，「戦争中に生きた子どもの生活や思い」について考えを深めようとしているか。
第四次②	・戦争に関する他の読みたい作品を読む。 ・「戦争中に生きた子どもの生活や思い」についてハンドブックシートにあとがきを書く。	・今まで書いたハンドブックシートを振り返りながらあとがきを書くようにする。 ・今の自分の生き方とも比べるように助言する。 ◎あとがきを書くことによって，さらに自分の考えを深めようとしているか。

(4) 本時の指導

① 目　標　・2作品の類似点，相違点をもとに，戦争中に生きた子どもの生活や思いについて進んで考えようとする。（関心・意欲・態度）

・気付いたことを話したり，ハンドブックシートに書いたりできる。（表現）

・類似点や相違点がまとめてあるプリントを読み取ることができる。（理解）

② 展　開

学　習　活　動	かかわり合い	・支援　　◎評価
1　学習課題を知る。		
戦争中に生きた子どもの生活や思いについて気付いたことを話し合おう。		
2　プリントを読み，ハンドブックシートに気付いたことを書く。	・類似点や相違点がまとめてあるプリントを読む。	・書けない子どもには，視点をしぼって考えるように助言する。 ◎類似点，相違点を根拠にして，自分の考えをもつことができたか。
3　戦争中に生きた子どもの生活や思いについて，全体で話し合う。	・ハンドブックシートを読む。 ・友達の考えを聞く。	・子どもの発表の中で，全体で考えたいことがあった場合，立ち止まり話し合いをする。
4　発表を通して，新たに気付いたことをハンドブックシートに書き加える。	・ハンドブックシートに書く。	・板書をもとに話し合いを想起するように助言する。
5　本時を振り返り，「学習振り返り表」に書く。		

③　評　価　・戦争中に生きた子どもの生活や思いについて進んで考えることができたか。
・気付いたことを話したり，ハンドブックシートに書いたりできたか。
・類似点や相違点がまとめてあるプリントを読み取ることができたか。

(5)　研究の成果と課題

<成　果>

①　単元構成の工夫

・大単元を設定して，生き方を見つめさせるような迫り方は，高学年にとって有効であった。
・二作品を比べて読むという読書指導を取り入れた結果，戦争を題材にした他の読み物に児童が興味をもち，単元終了後も進んで戦争を題材にした本を読む態度がみられた。
・「つかむ」段階では，夏休み調べ学習で，戦争中の人々の生活や思いを調べさせた。それを掲示したり，発表したりしたことで，戦争についての関心が高まった。
・戦争中の子どもの生活や思いを考えるという意味では，本単元で扱った二作品は，適切であった。また場面やテーマが比べやすい二教材であった。

②　学習活動の工夫

・オリジナルハンドブック作りという明確なめあてをもたせた結果，単元全体に主体的に取り組み，完成した時には自己評価や相互評価に役立った。また学習したことが形となったことで，子どもの中で満足感や充実感が生まれた。
・「深める」段階での「日記」「心情曲線」「インタビュー」等の表現方法は，読みを主体的にさせ，チャイムがなっても活動に熱中する子どもの姿が見られた。

③　指導と評価の工夫

・毎時間ごとに自己評価の時間を設定し，学習振り返りカードに書いたことは，次時への見通しと意欲をもつことに有効であった。
・読み合いの場では，友達の考えのよいところにシールで印を付けた。この結果，読み合いが活発になり，主体的な相互学習ができた。

<課　題>

・一つの教材を短時間で扱うには，読みの視点をより絞る必要があった。1教材の最後にまとめの時間をそれぞれ設定する必要がある。
・個人差に応じた複数教材の扱いを今後考えていく必要がある。もう一方を既習教材にしたり，個人ごとに違う教材を使用したりするなど，単元の目標や児童の実態に合わせて多様な複数教材の在り方を工夫する。
・複数教材を扱うことにより，一作品の読み深めにかける時間がどうしても少なくなってしまう。話し合う視点の取り上げ方や学習形態等も含めて，今後実践を通して研究を深めていく。

高学年B分科会	研究主題	目的や課題をもって読み，かかわり合いを通して 自分の思いや考えを深める学習活動の工夫

第６学年　**「守る，みんなの尾瀬を」を学習後，いろいろな伝記文を読み，自分の選んだ心に残る人物を紹介し合う。**

⑴　単元名　心に残る「あの時あの人あのできごと」　― 私が選んだ○○ ―
　　教材名　「守る，みんなの尾瀬を」

⑵　研究主題と単元とのかかわり

この時期の児童は，自分について考えるとともに，周囲の人物を客観的にみることができるようになってくる。一つのことに情熱を燃やし一生を捧げた人物の伝記を読み，その足跡をたどったり見方や考え方をとらえたりすることは，自分の考えを深める上で大切である。

道徳で関連する内容を学習し，社会科の歴史学習で学んだことを生かして本教材に取り組むことで，教材に対する意欲が高まると考えた。本教材で年表にまとめる読み取り方を学習し，その学習方法を生かし，自分が選んだ伝記を読み進めていく。そして，児童が心に残った人物を様々な方法で紹介し合う。偉人の生き方を考えることを通して，自分の生き方についても考えを深めさせたい。

⑶　学習指導計画の概要（全１３時間　本時１１／１３時）

時	主な学習活動	主題に迫るための具体的な手だて（・支援◎評価）
第一次②	・単元名を知り，学習の見通しをもつ。 ・学習計画を立てる。	・単元名の提示を工夫する。 ・付箋紙を利用し，全員の感想文を印刷する。 ◎友達の感想に興味をもち，進んで計画を考えることができたか。
第二次③	・長靖の行動を中心に出来事などを年表にまとめる。 ・長靖の人柄や考え方を読み取り心に残ったことを話し合う	・個に応じて年表の形式を選択できるようにする。 ◎長靖の行動を読み取り，自分の感想を書き込んだ年表を作ることができたか。 ・文章の叙述・年表に即して読み取ることができるようにする。 ◎長靖の生き方について進んで話し合いに参加することができたか。
第三次⑧	・「私が選んだ○○」の紹介をするために伝記を読む。 ・人物の行動や自分の考えをまとめる。 ・「私が選んだ○○」について紹介し合う。	・様々な伝記を準備する。 ◎進んで人物を選択できたか。 ・学習方法について情報交換ができるようにする。 ◎自分の考えをまとめることができたか。 ・既習の学習を生かし，紹介できるようにする。 ◎人物から学んだことを表現することができたか。

(4) 本時の指導

① 目　標

・選んだ人物を進んで友達と紹介し合おうとする。　（関心・意欲・態度）

・メモをもとにして人物の紹介をすることができる。　（表現）

・観点をもって友達の紹介を聞くことができる。　（理解）

② 展　開

学　習　活　動	かかわり合い	・支援　◎評価
1　学習計画を確認する。		
人物について発表メモを作り，紹介し合おう。		
2　選んだ人物について自分の考えをまとめ，発表メモを書く。 メモ作成の観点 ・その人物を選んだ理由 ・どういう人物なのか ・作った資料の説明 ・印象に残った「あの時あのできごと」	・友達や先生と相談して自分に合う発表メモ用紙を選択する。	・4つの観点で発表メモが作成できるようにする。 ・発表メモの作成用紙は，個に応じて選択できるように，数種類準備する ◎4つの観点で発表の準備をしようとしたか。
3　メモをもとに紹介し合い感想を言ったりメモを見直したりする。	・二人組で紹介しアドバイスし合う。 ・他の友達とも進んで紹介し合う。	・4つの観点を意識しながら話を聞くことができるようにする。 ・二人組での紹介が終わったら，情報交換コーナーで他の友だちと紹介し合うよう促す。 ◎友達と進んで紹介し合うことができたか。
4　人物の名前を年表や地図に貼り，次時の発表方法について知る。	・社会科の学習を思い起こす。	・年表や地図で関連のある人物ごとにグループを作ることを伝える。

③ 評　価

・人物の紹介を通して友達と話したり聞いたりする楽しさを感じることができたか。

・発表メモをもとにして，人物の紹介をすることができたか。

・4つの観点を意識して，友達の紹介を聞くことができたか。

(5) 研究の成果と課題

<成　果>

① 単元構成の工夫について

・学習計画を教師と児童が共に作り上げることで，単元全体の見通しをもって学習活動を展開することができた。

・日常的に本の紹介活動を続けたり，道徳や社会などの他教科とのかかわり合いを意図的に設定したりすることで，自然や環境，伝記への興味や関心を高めることができた。

・他の教科書にある伝記を準備し，読んだ作品については名前と簡単な感想を書き添えるなど，学習環境を整えたり学習時間を確保したりすることにより，伝記を読むことに興味をもつことができた。また，家庭にある本を持ってきたり地域の図書館へ行き本を探したりして，児童自らが伝記を選んで読むようになった。

・自分で選んだ伝記を読み取る学習では，前時の「守る，みんなの尾瀬を」で学習した「年表づくりの方法」を生かそうとする児童，友達の方法を参考にして学習を進める児童の姿がみられた。また，前時で完成させた作品を展示し，紹介し合うコーナーを作ることによって，学習の成果を生かす場が設定でき，さらに次時の学習の参考にもなった。

② 学習活動の工夫について

・年表の形式を選ぶこと，自分の好きな人物を選ぶこと，紹介方法を考えることなど選択が各自に任されていたことで，一人一人のよさや可能性を発揮できるとともに学習意欲を持続することができた。

・一対一・グループ・学級全体の話し合いという学習形態を取り入れ，多様なかかわり合いを設定した。このことにより，互いのよさを見つけ，認め合い，自分の考えを深めたり広げたりすることができた。

③ 指導と評価の工夫について

・個に応じた支援を適切に行うことにより，児童の思いや願いを生かした学習活動を展開することができた。

・学習計画を立てることと，自己評価をすることが児童に習慣として身に付きつつある。自己評価をすることで，児童はその時間の学習の様子を振り返り，次の学習への意欲をもつことができた。

<課　題>

・自分で選んだ伝記の紹介の学習では，一人で学習する児童，友達と一緒に学習を進める児童など，いろいろなかかわり合いが見られた。互いのよさに気づき，認め合うというよりも，まだ日常の人間関係に魅かれたかかわり合いであったが，今後児童自らが目的や課題に応じたかかわり合いを求めるように支援していくことが必要である。

・学習方法を選択させる場面では，必ず支援と評価が必要である。児童の思いや願いを生かす支援の方法を探っていくことが大切である。

・学習計画を確認し，適切な支援をするため，学級全体の児童の学習状況を把握し，一覧表にまとめるなどの工夫が必要である。

Ⅳ　研究の成果と課題

主体的に読み，様々なかかわり合う活動を通して，自分の考えを深める学習の中で，児童の具体的な姿を見つめながら，研究を進めてきた。この研究により，次のような成果を得るとともに，課題も明らかになった。

1　成　果

(1)　主体的に読み，自分の考えを深めるために

国語科の学習における児童のよさを出し合う中で，児童の主体的に読み，考えを深める様々な姿が見えてきた。その姿を整理することで，望ましい姿が明らかになった。このことにより，学習を進める上での具体的な児童の姿をとらえることができた。自分の考えを深めるために，かかわり合う活動を単元構成・学習活動・指導と評価に取り入れる工夫をすると効果的であることが授業実践を通して検証された。

(2)　かかわり合う活動について

友達とのかかわり合いをはじめ，資料やコンピュータ等から情報を得ることもかかわり合うことの一つとして位置づけた。何と，どのように，何のためにかかわり合うのかということを探る中で，単元の目標や付けたい力に応じてかかわり合う活動を取り入れた単元構成を工夫すると効果的であることが分かった。このような単元で学習を進めることで，主体的に学ぼうとする児童を育てることができた。

(3)　主体的に読み，自分の考えを深めることとかかわり合う活動の関連

児童が主体的に読み進める中で，さらに知りたいことが湧き起こってくる。それに応えるのが，かかわり合う活動である。目的意識をもって学習に取り組み，様々なかかわり合う活動を通して，課題を解決する能力を培うことができた。調べる学習や友達との交流だけではなく，互いのよさに気づき，認め合い，自分の考えを深めたり広げたりする児童の様子が見られた。

2　課　題

・児童の主体性を重視し，個々に応じた支援をしていくときには，十分に考えを深めていくことができるための時間が必要になる。年間を通して児童の力を付けていくということを確認し，単元によって軽重を付けるなどの工夫をして時間を確保し，新鮮な気持ちで児童が取り組める活動を工夫することが必要である。

・児童が主体的に課題を解決していくために，何と，どのように，何のためにかかわり合うのかという視点を児童の発達段階や課題に応じてさらに明確にし，単元構成などを工夫していく。

・自分の考えが深まったり広がったりしたことが分かるような支援や評価を工夫する。